

水道・交通委員会資料
平成 26 年 9 月 12 日
交 通 局

相鉄・東急直通線（新横浜駅工区）の受託工事等の進捗状況について

1 これまでの経過及び今後の予定

- (1) 相鉄・JR直通線及び相鉄・東急直通線から構成される神奈川東部方面線は、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構(以下、鉄道・運輸機構という。)が整備を進めています。
- (2) このうち、相鉄・東急直通線は、JR東海道貨物線の横浜羽沢駅付近と東急東横線(目黒線)の日吉駅間に連絡線を新設し、これを利用して相鉄線と東急線が相互直通運転を行う計画となります。
- (3) 鉄道・運輸機構は、平成 19 年 4 月に速達性向上計画の国土交通大臣認定、及び 24 年 10 月に工事施行の大臣認可を受けました。

《相鉄・東急直通線速達性向上計画の概要》

建設概要	羽沢駅(仮称)～日吉駅 の延長約 10.0 km
開業時期	平成 31 年 4 月
事業費	約 1,957 億円



図 1 相鉄・東急直通線の路線図

- (4) この直通線は、環状 2 号線の地下を通過し、新横浜駅入口交差点で市営地下鉄ブルーラインと交差のうえ、新たに設けられた駅によりブルーラインとは乗り換えにて接続する計画です。営業線直下を横断する鉄道整備となり、営業線の安全確保を最優先させるため、24 年 12 月に交通局は新駅本体工事の一部を鉄道・運輸機構から受託しました。(受託工事費は鉄道・運輸機構が負担します。)



図 2 受託工事位置図

- (5) 受託工事の完了後、完成した施設は鉄道・運輸機構に引き渡します。その後、軌道・設備・建築などの工事が行われ、相模鉄道及び東急電鉄による営業準備を経て開業を迎えます。

2 交通局受託工区の概要

- (1) 直通線の新駅本体工事は、交通局受託工区と鉄道・運輸機構工区に分かれますが、このうち、交通局受託工区では、ブルーライン新横浜駅本体を仮受杭により支えたうえで、その下に直通線の新駅本体を構築する工事となります。
- (2) この工事では、新横浜駅本体を仮受けるために、一般的な仮受工法を採用し、継続工事として分割発注しました。その1工事は25年4月に発注し、10月に本格的に現地着手しました。



図3 受託工事平面図

3 工事進捗を図るための取組

- (1) 直通線の新駅本体は、羽沢駅(仮称)及び新綱島駅(仮称)方面からそれぞれ発進するシールドトンネルの接続部となり、シールドマシンが到達する前までに相当規模の土留工、路面覆工及び掘削工を完了させる必要があるため、より一層の工事進捗を目指すこととなりました。
- (2) このため、交通局受託工区では、仮受工法の変更[※]により工事進捗を図ることとし、概略検討を行うこととしました。

※立坑と導坑(小断面トンネル)を設けて駅本体の直下に到達し、仮受杭の打設を先行させることで工事進捗を図る。また、資機材の搬出入は道路外に設けた立坑を利用するため、24時間連続作業が可能となり自由度が高まる。

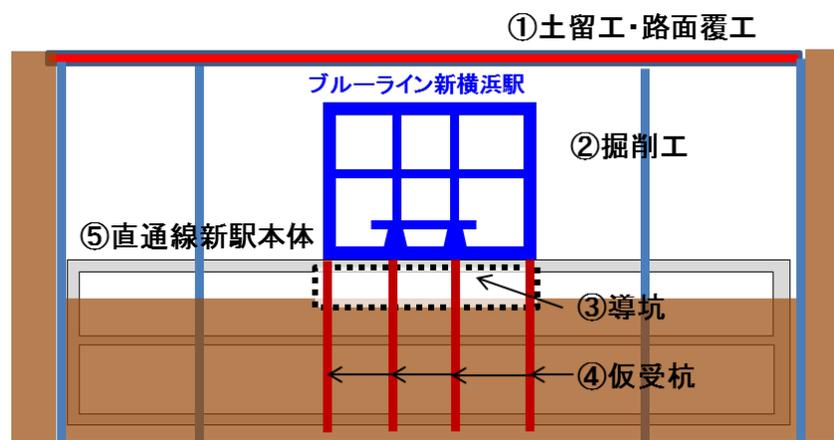
- (3) 概略検討の結果、この工法により、安全確保を前提に工事進捗を図っていく方向性が鉄道・運輸機構等と確認できましたので、今後、詳細検討を行い、工法変更に伴う実施工程、受託工事費の変更額などを精査していきます。

4 ブルーライン新横浜駅5番出入口の取扱い

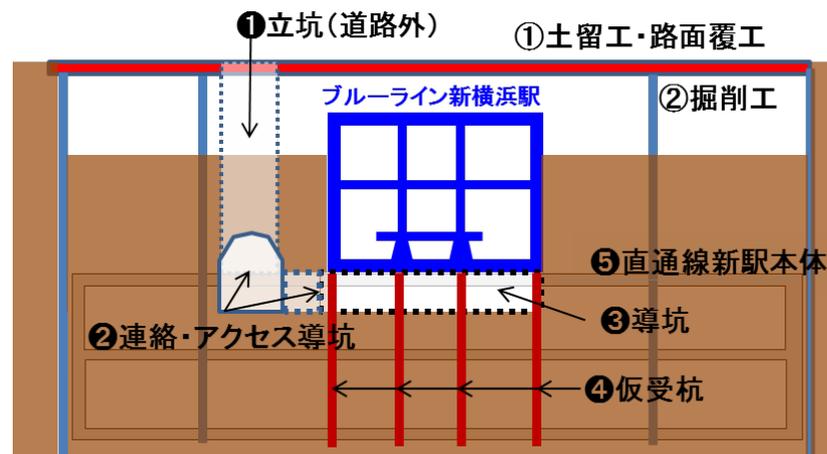
- (1) 5番出入口(昇降設備は階段のみ)は直通線の整備に伴い支障となるため、鉄道・運輸機構の負担により移設します。移設工事は25年1月に発注しましたが、仮受工法の変更に伴い、新たに設置する5番出入口の用地は立坑を設け作業ヤードとして利用する必要があります。このため、移設工事は、一時中断することとなりますが、早期再開に向け、現在、工程調整を進めています。
- (2) また、工事進捗に合わせ、既存の5番出入口は26年12月頃に閉鎖のうえ撤去する予定です。このため、当面の間、お客様は代替となる最寄りの8番出入口(階段に加えてエスカレーター及びエレベーターを併設)の利用となることから、事前周知を徹底するなど、案内の広報を適切に行います。

相鉄・東急直通線（新横浜駅工区）受託工事 仮受工法の変更について

一般的な工法（当初）



先行導坑工法（変更案）



工法変更のイメージ図

①の土留工・路面覆工及び②の掘削工【夜間作業】と同時施工により、

- ① 工事箇所を土留で囲い、覆工板で覆う。【夜間作業】
- ② 路面から順次、地盤を掘り下げる。【夜間作業】
- ③ 新横浜駅本体を露出させ、駅本体直下に導坑を設け、【終電後作業】
- ④ 仮受杭を打設し駅本体を仮受ける。【終電後作業】
- ⑤ さらに掘り下げて直通線の新駅本体の地下3階と4階の一部を構築する。また、仮受杭を撤去し、ブルーライン新横浜駅本体を直通線の新駅本体で本受けする。【24時間作業】

- ① 立坑と、【24時間作業】
- ② 連絡・アクセス導坑により新横浜駅本体に到達する。【24時間作業】
- ③ 駅本体直下に導坑を設け、【終電後作業】
- ④ 仮受杭を打設し駅本体を仮受ける。【終電後作業】
(仮受け後に②の掘削が完了し、駅本体が露出する。)
- ⑤ ⑤と同じ